琉球大学学術リポジトリ

便利な押入れの工夫いろいろ

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-05-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 比嘉, 美佐子, Higa, Misako
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19833

便利な押入れの工夫

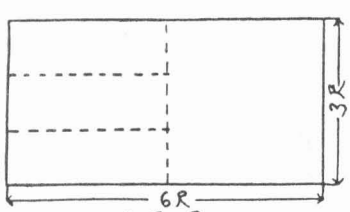
いろいろ

押入れや、造り付け戸棚のようなものは、昔の家にはあまり見られませんでした。生活が落着いて、ふとんを使用するようになりますと、寝具類をしまう場所が必要になつてきたのです。その現れとして中世紀以後の公家住宅、即ちしんでん造りの母屋に寝屋兼貴重品の収納場として塗籠（ぬりごめ）という小部屋を設けるようになつたといわれて居ります。その後十五、六世紀後に納戸（なんど）と呼ばれ、主として寝具類や家財道具をしまう場所として使用されてまいりました。現在では殆ど各部屋に押入が設けられ、寝具類その他の家具を雑に積み重ねつどつど要を達しているのが私達の住まいの生活だと思います。

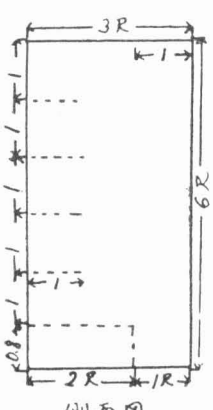
併しながら、私達の家庭に見られる押入の寸法がどの部屋も殆ど同じ規格なので、寝具類をしまうには適当であつてもその他の場合には不適当だという事になります。例えば洋服入れの場合奥行三尺の押入は深すぎて空間が無駄になりますので、能率の上らない仕事をする事になります。但しそのような押入はりんきおうへんにどんなものでもしまい込めますから農家の収穫物入れとして、又季節毎に使用する納戸（なんど）として一つ設ける事は便利だと思います。しかし、今後の住いに押入の全てが、どれもこれも同じ規格のものを計画する事は一応反省すべきではないでしょうか？　戦後のいちじるしい衣食生活の変化に応じて、もつともつと住まいの工夫がなされべきでありましょう。例えば、寝具類だけしまう押入でも従来どおりに真中で棚一段に仕切つて上下に使うと、積みすぎて寝具がいたむ事があり、三だんに使うという方法も考えられましよう。又従来の和箪笥（わだんす）は着物の管理には適当であつても洋服の場合には不適当で、一尺八寸内至二尺の奥行きの洋箪笥（ようだんす）が適当で三尺奥行きでは深すぎる事になります。家を設計する場合に、その家庭の家族数や持物に応じてむだのない設計を考慮する事が肝要です沖縄においては殊に土地の制限があり小さな場所を如何に有効に使うか又家事労働を軽くするために平面上だけでなく立体的に空間を生かす工夫が最も大事な問題だと思います。それではすでに設けられた押入れはどのように改造出来るかと申しますと、子供の二段ベッドあるいはベッドと棚、部分的に固定した机とする事も出来ましょうし、その他数多くの工夫が出来ると思います。即ちどういうふうに利用すべきかはその部屋の広さ機能（きのう）等によつて必要性がきまつてくるのではないでしょうか。それでは押入の利用法を略図によつて説明致しましよう

（図一）

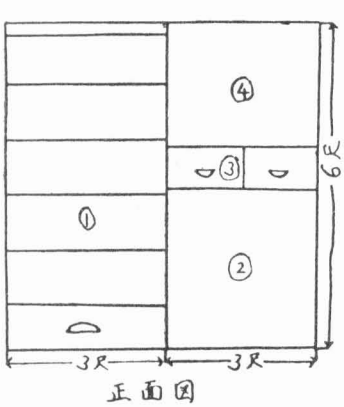
寝室・居間あるいは客間に設けられた押入で、一部屋側から使用する事を仮定して、かんがえられた例です。改造の条件として、洋服、寝具、座ぶとん類を夫々しまう場所を必要として計画されたも



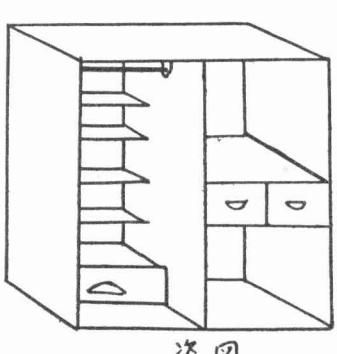
平面図



側面図



正面図


姿図

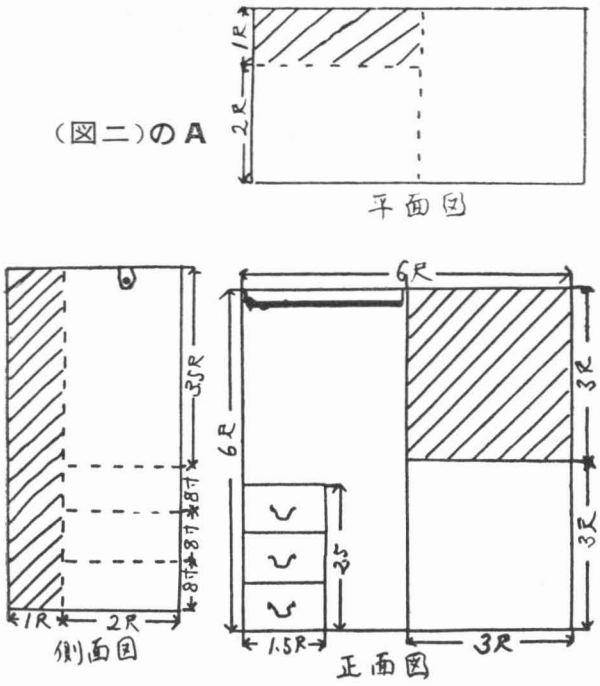
のですが、欠点として奥の方に設けてある棚が、物の出し入れに少々不便であります。それで平常使用しないものをしまう場所とすれば宜ろしいでしょう

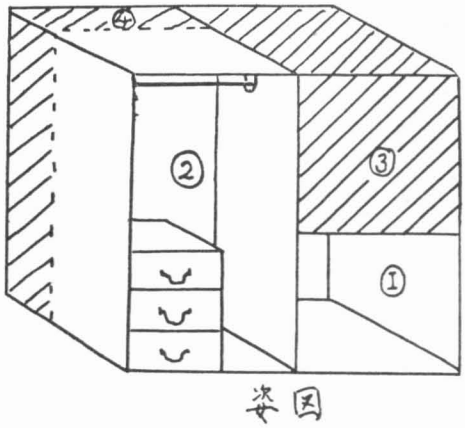
1、洋服類 2、寝具類(二人前) 3、引出し(下着類) 4、座ぶとん、(十一十三枚)

(図二)のA

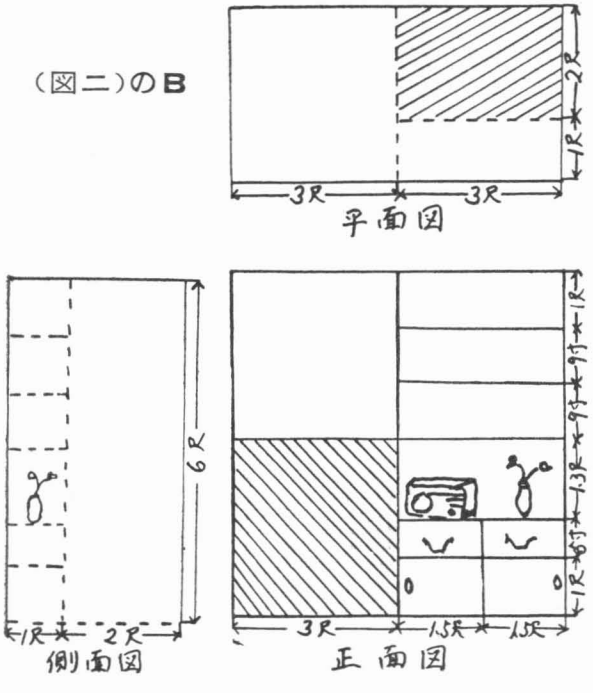
寝室(又は居間)と茶の間に面した押入で、両側の部屋から改造出来ると仮定して計画されたものです。(1)と(2)は寝室(居間)側から、寝具、洋服類等に使用します。三段になつている引出しの上は、上着、半コート等短かい洋服類をかけるのに使用します。

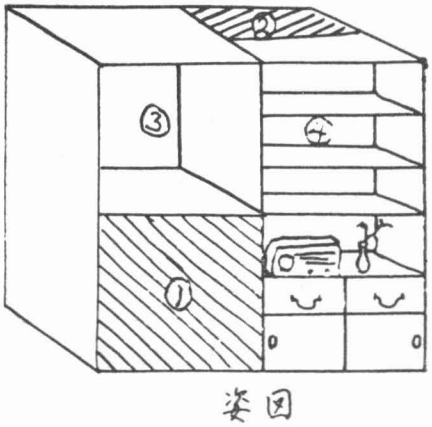
(図二)のA





(図二)のB





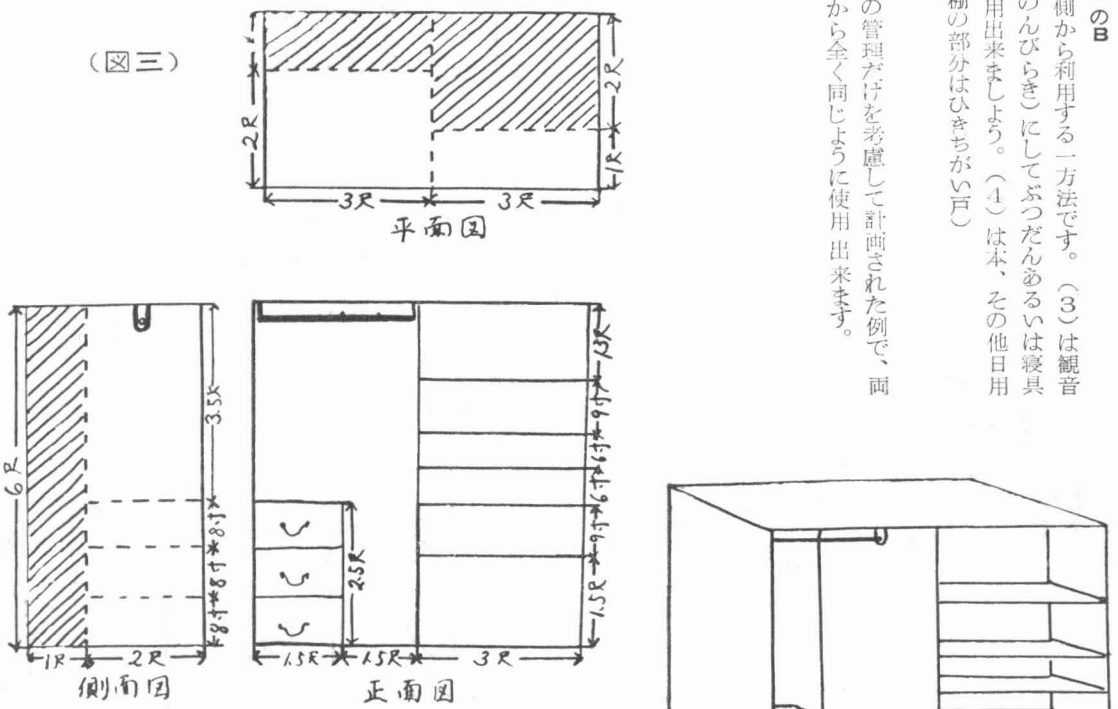
（図二）のB

茶の間側から利用する一方法です。（3）は観音開（かんのんびらき）にしてふつだんあるいは寝具入れに使用出来ましょう。（4）は本、その他日用品入れ（棚の部分はひきちがい戸）

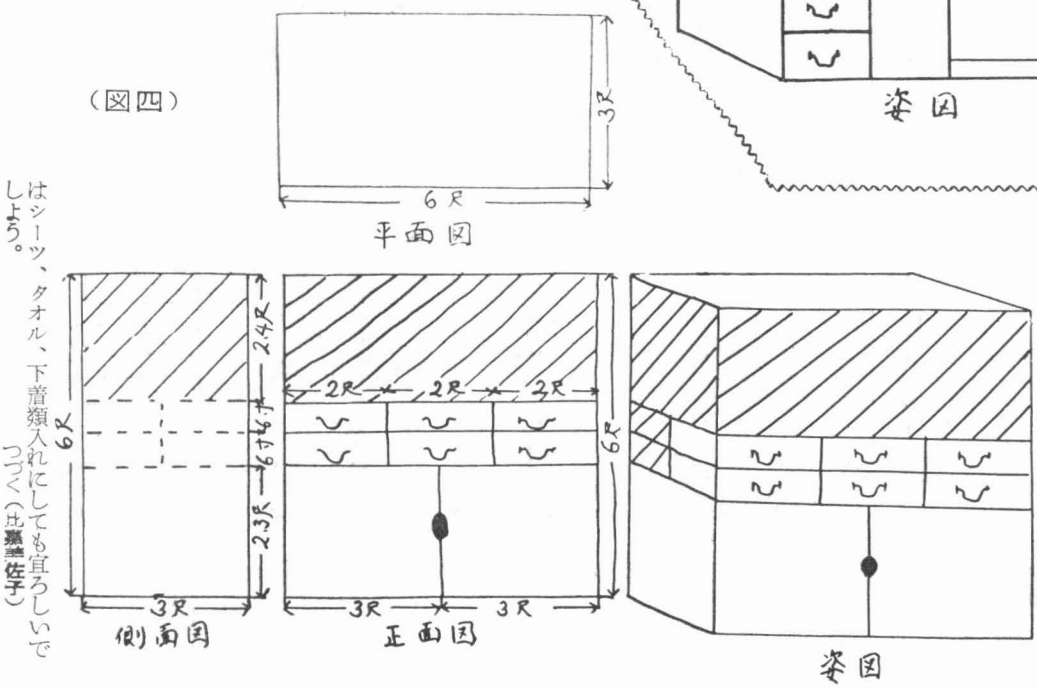
（図三）

洋服類の管理だけを考慮して計画された例で、両側の部屋から全く同じように使用出来ます。

（図三）



（図四）



（図四）

寝具類の管理だけを計画した例で、斜線の部分は他の部屋から全く同じように使用出来ます。引出しはシーツ、タオル、下着類入れにしても宜ろしいでしょう。

つづく（比嘉佐子）